

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



株主通信

Vol.16

2014年度 第2四半期決算号
2014年4月1日 ~ 2014年9月30日

- 株主の皆様へ 1
- 経営説明会レポート 2
- 研究開発パイプライン 6
- 国内新製品クローズアップ 7
- コーポレートガバナンス 9

第一三共株式会社

証券コード 4568

株主の皆様へ

株主の皆様には日頃より当社の経営に暖かいご支援、ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

第一三共グループは、革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献することを企業理念に掲げています。

その中で、今上半期(2014年4月~9月)においては、次代の主力品として期待される2つの当社開発品に大きな進展が得られました。まず、抗血小板剤プラスグレル(製品名:エフィエント)を5月27日に日本国内において新発売しました。そして、同じく日本国内において、抗凝固剤エドキサバン(製品名:リクシアナ)は9月26日に、2つの極めて重要な適応症で効能追加承認を取得しました。エドキサバンについては米国において10月30日に米国食品医薬品局(FDA)の諮問委員会が開催され、賛成9対反対1で承認勧告をするという結果を得ています。米国での承認取得に向けてFDAと協力してまいります。

一方、4月にはインドの子会社ランバクシーが、今後、サン・ファーマと合併することを発表しましたが、9月末までに両社の株主総会にて承認され、インド関係当局の最終審査が進捗しています。

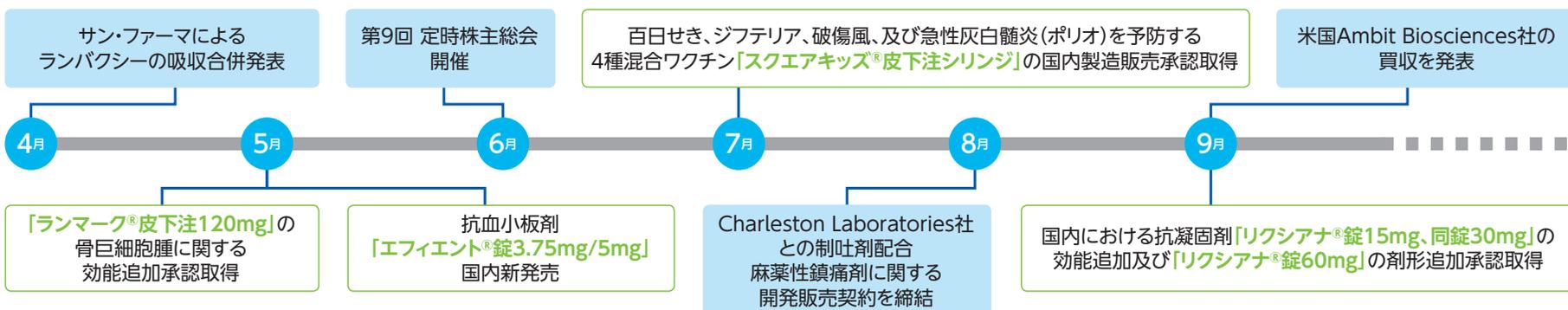
下半期におきましては、後発品との競争激化の中での主力品の売上維持拡大や持続的成長に向けた事業運営体制の最適化など乗り越えるべき課題にグループ一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様の引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2014年11月

代表取締役社長 兼 CEO 中山讓治

2014年度上半期ハイライト



経営説明会レポート

第2四半期連結業績の概況

2014年度第2四半期累計期間(2014年4月1日～2014年9月30日)の連結業績について、はじめにランバクシーグループを含む全体の状況から述べますと、売上収益は5,254億円(対前年同期86億円増収)、営業利益は688億円(同161億円増益)、親会社帰属の当期利益は503億円(同168億円増益)となりました。

第一三共グループのみの状況では、売上収益は4,296億円(対前年同期5億円増収)、営業利益は587億円(同86億円増益)、親会社帰属の当期利益は355億円(同3億円増益)となりました。以下、業績要因について、第一三共グループにおける増減の内訳を中心に説明申し上げます。

売上収益は、国内医薬と米国子会社の第一三共Inc.における減収を、米国ライトポルド社とASCA(アジア・中南米地域)事業の増収が補った形となりました。国内医薬は他社ジェネリック医薬品の伸長による影響を大きく受け、第一三共Inc.も高血圧症治療剤における競合激化が響きました。一方、ライトポルド社は貧血治療剤が好調に推移し、ASCA事業は中

国・ブラジル等各国での健闘が増収に寄与しました。

円安傾向も増収要因のひとつです。

利益面では、主に研究開発費及び販売管理費が前年同期比で減少したことが、営業利益の増加につながりました。また金融収支の改善が、親会社帰属の当期利益における増益要因となりました。

連結業績の概要(単位:億円)

連結業績			
	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減
売上収益	5,168	5,254	+86
営業利益	527	688	+161
税引前利益	439	654	+215
当期利益(親会社帰属)	335	503	+168
為替レート	USD/円 98.86	103.05	
	EUR/円 130.01	138.91	
	INR/円 1.74	1.72	

第一三共グループ			
	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減
売上収益	4,291	4,296	+5 +0.1%
営業利益	501	587	+86 +17.2%
税引前利益	502	607	+105 +20.8%
当期利益(親会社帰属)	352	355	+3 +0.8%

* ランバクシーグループを含まない「第一三共グループ」の数字のみで公表しています。

通期業績予想の修正について

第2四半期までの業績と今後の見通しを鑑み、第一三共グループの2014年度業績目標を修正しました。新たな目標として、売上収益は9,000億円(従来計画比200億円減)、営業利益及び税引前利益は1,000億円(同200億円減)、親会社帰属の当期利益は650億円(同130億円減)を目指してまいります。

売上収益については、国内医薬における主力品の計画未達に加え、ジェネリック医薬品の処方拡大による長期収載品への影響が想定以上に大きくなっていること、また米国で高血圧症治療剤オルメサルタンの競合ジェネリック製品が発売され、価格競争が激化していることなどを踏まえ、計画を見直しました。

利益面については、売上収益の下方修正による営業利益の減少に加え、日本における事業運営体制の最適化を図るにあたり、関連費用の計上を見込むことにしました。一方で、さらなるコスト削減に取り組むことで利益の確保を図ってまいります。

主要ビジネスの状況

国内主要製品のうち、抗潰瘍剤ネキシウムやアルツハイマー型認知症治療剤メマリー、骨粗鬆症治療剤プラリア等が特に伸長していますが、当初の売上計画に対して未達となっています。

堅調なネキシウムや高血圧症治療剤オルメテックのNo.1シェアをさらに拡大しつつ、メマリー、プラリア、抗血小板剤エフィエントといった主力製品への取り組みをより強化していきます。

主要ビジネスユニット別の売上についても、第2四半期までの実績を踏まえて、年度計画を修正しました。この修正計画を必達させるべく、主要製品を中心とする取り組みに総力を挙げていきます。

2014年度 第一三共グループ業績予想修正(単位:億円)

	2014年度予想 (7月公表)	2014年度修正予想 (10月公表)	差異
売上収益	9,200	9,000	-200
営業利益	1,200	1,000	-200
税引前利益	1,200	1,000	-200
当期利益 (親会社帰属)	780	650	-130
為替レート	USD/円 100.00	104.02	第3・第4四半期の 見込み USD/円:105 EUR/円:140
	EUR/円 140.00	139.46	

国内主要製品売上推移(単位:億円)

	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減	修正年度 計画	前回公表 差異
オルメテック 高血圧症治療剤	376	378	+3	790	
ネキシウム 抗潰瘍剤(プロトンポンプ阻害剤)	240	321	+81	670	
ロキソニン 消炎鎮痛剤	307	254	-53	480	-40
メマリー アルツハイマー型認知症治療剤	144	168	+24	390	-110
クラビット 合成抗菌剤	157	142	-15	270	-20
レザルタス 高血圧症治療剤	90	90	+0	180	-40
アーチスト 高血圧症治療剤	111	94	-16	180	-30
メバロチン 高コレステロール血症治療剤	111	83	-28	160	-10
オムニパーク 造影剤	100	86	-14	170	+20
プラリア 骨粗鬆症治療剤	9	30	+20	70	-50
ランマーク 癌骨転移治療剤	34	47	+12	100	

サン・ファーマによる ランバクシーの吸収合併

本合併については、2014年4月6日の契約締結から手続きが進捗し、9月末までに両社の株主総会による承認が得られました。

現在、インドの監督官庁の最終審査を受けており、その後、高等裁判所の承認を得て、2014年末ないし2015年初頭までには合併が成立するものと見ています。

合併完了後、当社は株式交換により、サン・ファーマの新株式の約9%を保有することになります。ランバクシーグループの最終損益及び株式交換に伴う損益等は「非継続事業に係る損益」として計上される予定です。詳細は、確定した段階でお知らせいたします。

日本における 事業運営体制の最適化

当社は、業界平均よりも高い販売管理費比率を改善するため、また、2016年の秋以降に最主力品オルメサルタンの特許期間が満了することに備え、日本における事業運営体制の最適化に着手していきます。持続的成長のための投資を可能にする経営基盤強化、自立的な事業運営の強化、低コスト体質への転換を目指します。

具体的には、国内グループ会社や事業部門の自立的な運営を促し、間接業務の削減・機能集約や組織簡素化による体制改革を進めます。人事施策面では、国内グループ全社員の配置を見直し、要員適正化を図ります。

サプライチェーンの再編については、2015年4月を目処に、原薬機能に特化する「第一三共ケミカルファーマ」と製剤・物流機能に特化する「第一三共プロファーマ」の2社体制を確立し、秋田工場をアルフレッサファーマ株式会社に譲渡する予定です。

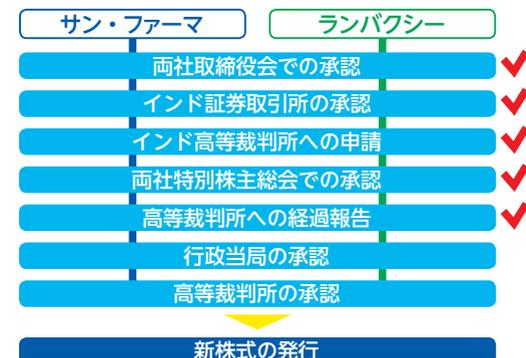
2014年度の配当方針について

安定配当の実施を基本とする株主還元方針に則り、今回の中間配当は、予定通り1株当たり30円とさせていただきます。12月1日よりお支払いします。また、期末配当につきましても同額の実施を予定しており、これを合わせた年間配当金は60円(前期同額)、連結配当性向は65.0%となる見込みです。

■主要ビジネスユニット 売上推移(単位:億円)

	2013年度 第2四半期	2014年度 第2四半期	増減	修正年度 計画	前回公表 差異
日本カンパニー+ワクチン事業	2,276	2,226	-49	4,800	-280
第一三共ヘルスケア	230	227	-3	480	
第一三共 Inc.	865	781	-84	1,610	-30
ルイトポルド	183	268	+85	530	+30
第一三共ヨーロッパ GmbH	404	445	+41	840	+30
アジア/中南米 (ASCA)	269	300	+31	640	+50
ランバクシーグループ	884	964	+80	—	—

■サン・ファーマによるランバクシーの吸収合併



研究開発の状況

開発パイプラインの状況についてご報告します。

抗凝固剤エドキサバンは、9月に国内における効能追加承認を取得しました。薬価収載後、速やかに新適応での発売を行います。



ミロガバリンは、線維筋痛症の患者さんを対象に、米欧でフェーズ3試験を開始しました。米国でのオルメサルタン特許満了後のビジネス補完を目的として、8月に導入した制吐剤配合麻薬性鎮痛剤CL-108もフェーズ3試験が進行中です。日本では、バイオ後続品であるエタネルセプトが関節リウマチの患者さんを対象に、フェーズ3試験を開始しました。

急性骨髄性白血病を適応症とするキザルチニブは、米国Ambit Biosciences社のプロジェクトです。9月に同社の買収を決定し、本件を当社主導で進めていくこととしました。

そして今回、新たにフェーズ1入りしたDS-6051は、「NTRK/ROS1」という標的遺伝子に特異的なキナーゼ阻害剤です。今後、癌領域における中心的なプロジェクトになり得ると期待しています。

エドキサバンの FDA諮問委員会における 承認勧告

直近の動きとして、10月31日に発表された米国食品医薬品局(以下FDA)諮問委員会(外部専門家による会議)におけるエドキサバンの



承認勧告について、ご報告申し上げます。

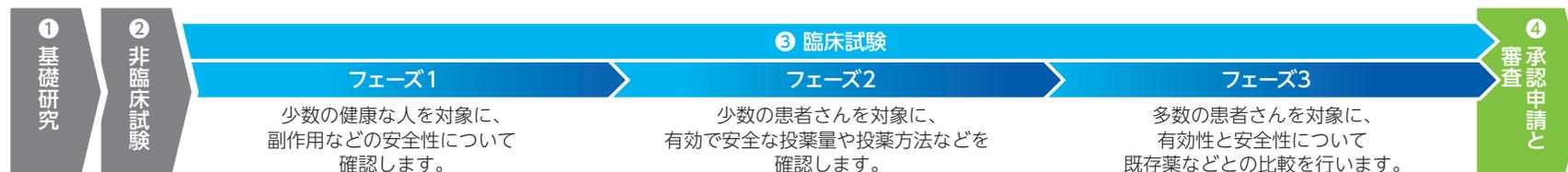
FDA諮問委員会は、抗凝固剤SAVAYSA(エドキサバン)の「非弁膜症性心房細動患者における脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制」に関する適応症について、承認を勧告しました。(賛成9、反対1)

FDAは、承認審査の過程において、必ずしも諮問委員会の勧告に拘束されることはありませんが、当社は、グローバルフェーズ3試験の結果により、エドキサバンが米国でも承認されるものと自信を持っています。

研究開発パイプライン(2014年10月現在)

領域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	承認申請
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> ● DS-1040 (急性期虚血性脳血管障害/TAFIa阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ● CS-3150 (日) (高血圧症・糖尿病性腎症/MR拮抗薬) ● DS-8500 (日) (糖尿病/GPR119作動薬) 	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスグレル (日) (CS-747/虚血性脳血管障害/抗血小板剤) ● プラスグレル (米) (CS-747/鎌状赤血球/抗血小板剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ● エドキサバン (米欧他) (DU-176b/AF/経口FXa阻害剤) ● エドキサバン (米欧他) (DU-176b/VTE/経口FXa阻害剤)
癌	<ul style="list-style-type: none"> ● U3-1565 (米日) (抗HB-EGF抗体) ● DS-7423 (米日) (PI3K/mTOR阻害剤) ● DS-3078 (米欧) (mTOR阻害剤) ● DS-3032 (米) (MDM2阻害剤) ● PLX7486 (米) (Fms/Trk阻害剤) ● DS-8895 (日) (抗EPHA2抗体) ● DS-8273 (米) (抗DR5抗体) ● PLX8394 (米) (BRAF阻害剤) ● DS-6051 (米) (NTRK/ROS1阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Patritumab (米欧) (U3-1287/抗HER3抗体) ● Vemurafenib (米欧) (PLX4032/BRAF阻害剤) ● PLX3397 (米) (Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Tivantinib (米欧) (ARQ 197 /肝細胞癌/Met阻害剤) ● デノスマブ (日) (AMG 162/乳癌補助療法/抗RANKL抗体) ● ニモズマブ (日) (DE-766/胃癌/抗EGFR抗体) ● Vemurafenib (米) (PLX4032/メラノーマ術後補助療法/BRAF阻害剤) 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● PLX5622 (関節リウマチ/FMSキナーゼ阻害剤) ● DS-1093 (腎性貧血/HIF-PH阻害剤) ● DS-3801 (慢性便秘/GPR38アゴニスト) ● DS-1971 (慢性疼痛) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Mirogabalin (日) (DS-5565/慢性疼痛/$\alpha 2\delta$リガンド) ● SUN13837 (米欧) (脊髄損傷/bFGF様細胞分化誘導体) ● ラニナミビル (米欧) (CS-8958/抗インフルエンザ/ビオタと導出活動中) ● Ioforninol (日) (GE-145/X線造影剤/血管撮影) 	<ul style="list-style-type: none"> ● Mirogabalin (米欧) (DS-5565/線維筋痛症/$\alpha 2\delta$リガンド) ● レボフロキサシン (日) (DR-3355/感染症/ニューキノロン系抗菌剤) ● デノスマブ (日) (AMG 162/関節リウマチ/抗RANKL抗体) ● ヒドロモルフォン (日) (DS-7113/癌性疼痛/μオピオイド受容体作動薬) ● CHS-0214 (日) (エタネルセプトバイオ後続/関節リウマチ/TNFα阻害剤) ● CL-108 (米) (急性疼痛/μオピオイド受容体作動薬) 	

■ 新薬が生まれるまで



国内新製品クローズアップ

血栓症と第一三共の2つの治療薬

■ 血栓症とは？

血栓とは、血液の中の成分が何らかの原因で固まり、血管の中で塊を形成したものです。通常、時間とともに血栓は溶けて小さくなりますが、これが溶解せずに大きくなると血管が詰まってその先で血液が不足したり、組織が壊死したりすることがあります。これが血栓症です。

ひとくちに血栓と言っても、たとえば血流スピードの異なる静脈と動脈では、形成されるメカニズムが異なります。それぞれに適した抗血栓薬を使うことが必要となります。

■ 抗凝固剤リクシアナ

血液の流れの遅い静脈の内部や血流の滞った状態の心房内では、血液の凝固反応が主体となってフィブリン血栓が作られます。この血栓の形成を阻害するのが抗凝固剤リクシアナです。抗凝固剤の適応疾患のひとつである心房細動は不整脈のひとつですが、心臓が正しいリズムで拍動できなくなるため、心房内の血液の流れがよどんで心房の中に血栓ができやすくなります。この血栓が心房からはがれて全身の血管をつまらせると、脳梗塞や全身性塞栓症を引き起こす原因となり得ます。そのリスクは心房細動のない患者さんに比べて3～5倍も高くなると言われています。

■ 抗血小板剤エフィエント

血液の流れの速い動脈の内部では、血小板が集まってかたまりができることで血小板血栓が作られます。血小板が凝集するのを防ぐことで動脈血栓の形成を阻害するのが抗血小板剤エフィエントです。

虚血性心疾患の患者さんの血管は血栓ができやすく、ステントなどで血管を広げる治療が行われることがありますが、ステントを留置してもその表面や周囲に血栓ができる可能性があると言われています。

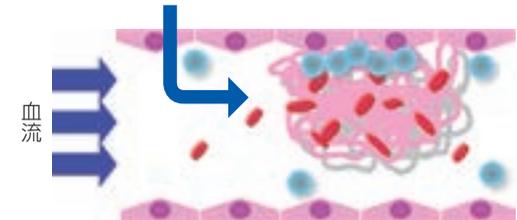
リクシアナの効果

血液の流れの遅い静脈や心房内で、血液が固まることを抑えます。



血流の遅い場所のできる静脈血栓

フィブリン血栓(赤色血栓)



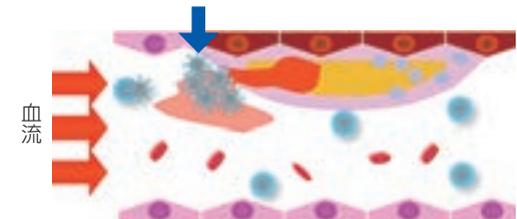
エフィエントの効果

血液の流れの速い動脈内で、血栓の原因となる血小板の凝集を抑えます。



血流の速い場所のできる動脈血栓

血小板血栓(白色血栓)



日本
効能
追加

リクシアナ

リクシアナ(一般名:エドキサバン)は当社が創製した新規経口抗凝固剤です。日本では整形外科領域の治療薬^{*1}として2011年より販売しています。そして2014年9月26日、心房細動と静脈血栓塞栓症の領域の治療薬^{*2}として効能追加承認を取得しました。欧米においては現在、薬事当局による審査中で、2014年度中の承認取得・発売を目指しています。

1日1回の服用で効果を発揮し、標準治療薬ワルファリンと同程度の高い有効性を持ちながら出血リスクが低く安全性に優れることが、世界最大規模かつ高品質のグローバルフェーズ3試験で示されました。

※1 下肢整形外科手術後の静脈血栓塞栓症発症抑制を適応症とする。

※2 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制及び静脈血栓塞栓症(深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症)の治療及び再発抑制を適応症とする。

Point 1

1日1回投与の
利便性

Point 2

低い
出血リスク

Point 3

世界最大規模・
高品質の
試験データ

日本で
新発売

エフィエント

エフィエント(一般名:プラスグレル)は、当社と宇部興産株式会社が創製した抗血小板剤です。2009年から欧米で先行して販売しており、経皮的冠動脈形成術(PCI)施行予定の急性冠症候群患者における抗血小板剤として、現在世界70カ国以上で承認されていますが、2014年5月27日、日本においては急性冠症候群患者だけではなく安定狭心症なども含めた「PCIを伴う虚血性心疾患」の適応で新発売しました。

速やかに、かつ安定的に血小板凝集を抑制することで、治療の早期から優れた心血管イベント抑制効果を示すことが国内の臨床試験で示されました。

Point 1

治療早期から
優れた心血管イベント
抑制効果

Point 2

速やかに・
安定的に
効果を発揮

Point 3

日本人に
最適な
用法用量

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスを取り巻く環境とそれに対する当社の取り組み、当社のコーポレートガバナンスの特徴についてご紹介いたします。

コーポレートガバナンスとは

コーポレートガバナンスは企業統治と訳され、企業活動を正しく律する仕組みのことです。

企業活動は、株主・投資家の皆様をはじめとした様々なステークホルダーとの良好な関係の上に成り立っています。活動範囲の拡大に伴い、異なる文化や社会の価値観も考慮しなくてはなりませんし、社会的責任を果たしながら企業活動を遂行することが必要とされます。

持続的な成長と企業価値の向上に向けて活動していくなかで、コーポレートガバナンスは規律ある経営により株主の皆様をはじめとするステークホルダーの信頼に応えるために、欠かすことのできない概念とされています。

社外取締役(独立役員)に期待される役割

企業がコーポレートガバナンスの強化を進めていく上で重要な役割を果たすのが社外取締役(独立役員)です。社外取締役は文字通り、社外の立場から経営に携わる取締役。つまり、他の取締役や取引先との利害関係がない第三者の立場から、外部の株主・投資家と同じ目線で経営をチェック・監督する役割を果たし、健全な企業成長に寄与する存在です。専門知識や識見を活かし、経営判断に助言・提言する役割も期待されています。

2001年に商法(現会社法)で社外取締役の定義がなされてから、コーポレートガバナンスへの意識の高まりとともに徐々に導入する会社が増えています。また、より企業に対する独立性の高い取締役の起用が望まれています。

第一三共の社外取締役

氏名 平林 博
主な兼職 公益財団法人日印協会理事長
選任理由 外交官としてのグローバルな経験に基づく専門知識と識見を当社の経営に反映していただくため。

氏名 石原 邦夫
主な兼職 東京海上日動火災保険株式会社相談役
選任理由 リスクマネジメントに関する専門知識や会社経営者としての経験に基づく識見を当社の経営に反映していただくため。

氏名 宇治 則孝
主な兼職 日本電信電話株式会社顧問
選任理由 情報通信分野に関する専門知識や会社経営者としての経験に基づく企業経営全般に関する識見を当社の経営に反映していただくため。

氏名 戸田 博史
主な兼職 UBS証券株式会社特別顧問
選任理由 証券・金融に関する専門知識や会社経営者及び駐ギリシャ共和国特命全権大使としての経験に基づく識見を当社の経営に反映していただくため。

第一三共の社外監査役

氏名 木村 明子
主な兼職 アンダーソン・毛利・友常法律事務所顧問
選任理由 弁護士としての豊富な実務経験に基づく専門知識と識見を当社の監査に反映していただくため。

氏名 片桐 裕
主な兼職 公益財団法人公共政策調査会理事長
選任理由 行政機関等での経験に基づく専門知識と識見を当社の監査に反映していただくため。

2014年

2月 日本版スチュワード・シップコード策定

6月 会社法改正(社外取締役の導入促進)

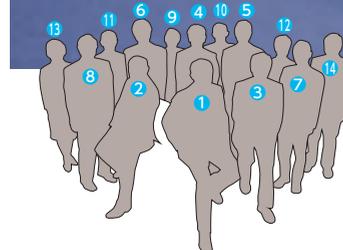
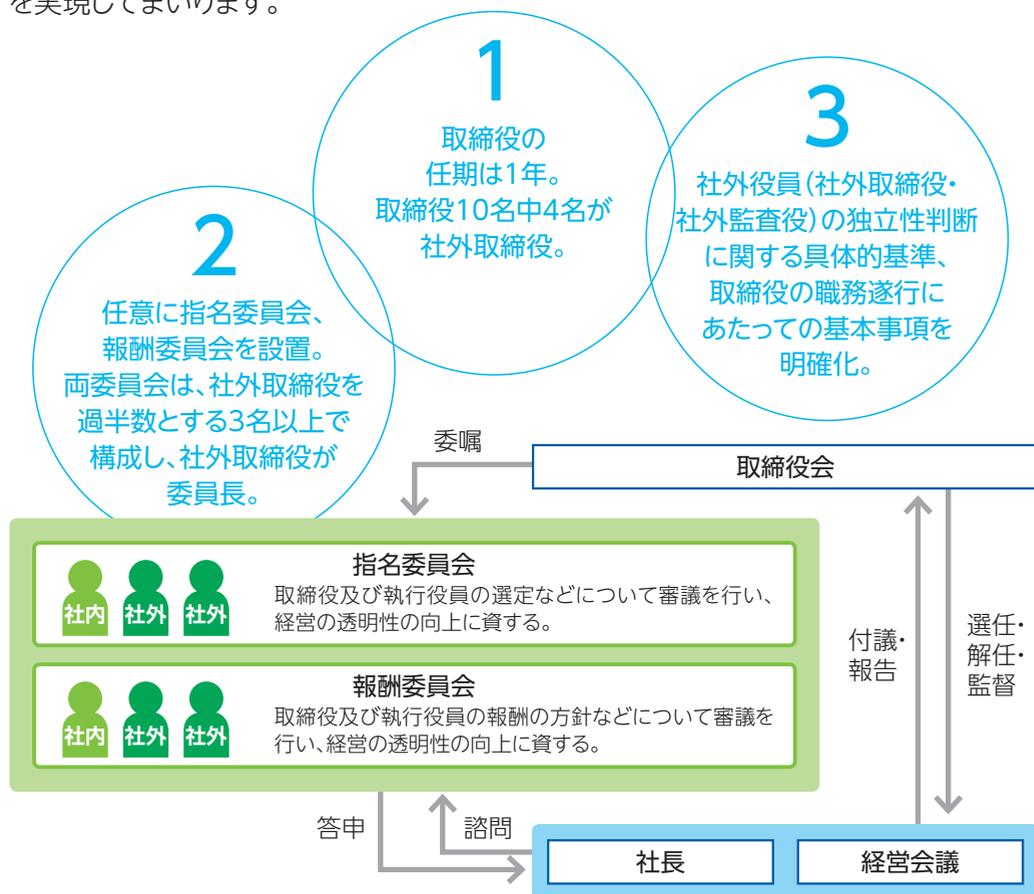
2015年

改正会社法施行(予定)
コーポレートガバナンスコード策定(予定)

第一三共のコーポレートガバナンスの特徴

当社では取締役10名のうち4名の社外取締役を選任しています。また、任意組織として、社外取締役を過半数とする指名委員会と報酬委員会を設置するなど、社外からの視点を十分に採り入れた取締役会体制を敷くことで、健全な企業経営を目指しています。

行動規範の制定、そして会社法改正の動きにも見られるように、企業経営にとってコーポレートガバナンスの重要性はますます高まっていくでしょう。第一三共は、今後もコーポレートガバナンスの強化を通じて、持続的な企業成長による株主価値の最大化を実現してまいります。



- ① 代表取締役社長兼 CEO
中山 讓治
なかやま じょうじ
- ② 代表取締役副社長執行役員
佐藤 雄紀
さとう ゆうき
- ③ 代表取締役副社長執行役員
坂井 学
さかい まなぶ

- ④ 取締役専務執行役員
荻田 健
おぎた たけし
- ⑤ 取締役専務執行役員
廣川 和憲
ひろかわ かずのり
- ⑥ 取締役常務執行役員
眞鍋 淳
まなべ すなお

- ⑦ 社外取締役
平林 博
ひらばやし ひろし
- ⑧ 社外取締役
石原 邦夫
いしはら くにお
- ⑨ 社外取締役
宇治 則孝
うじ のりたか
- ⑩ 社外取締役
戸田 博史
とだ ひろし

- ⑪ 常勤監査役
小池 和夫
こいけ かずお
- ⑫ 常勤監査役
千葉 崇
ちば たかし
- ⑬ 社外監査役
木村 明子
きむら あきこ
- ⑭ 社外監査役
片桐 裕
かたぎり ゆたか

第一三共株式会社は、株主の皆様当社グループの活動について分かりやすくお伝えするコミュニケーションツールのひとつとして株主通信をお届けしています。

株主通信2013年度決算号で実施しましたアンケートでは、多くの皆様にご感想・ご意見をお寄せ頂き、ありがとうございました。

〈いただいたご意見例〉

- 市民としての立場、株主の立場両方にとって良い製品を期待しています。
- 新薬の開発に努め、経営効率の向上を望む。
- 業績向上と配当性向のアップを期待します。

株主の皆様のご期待に沿えるよう、持続的な企業価値の向上に向けて邁進してまいります。

株主さまアンケートご協力をお願い

株主通信は、バックナンバーも含め当社ウェブサイトでもご覧いただけます。同ページにてアンケートも実施していますので、ぜひご意見をお寄せください。



アンケートはここをクリック!

http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/library/business_report/index.html

ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトにて「株主・投資家の皆様向け経営メッセージ」を掲載しています。11月に更新していますので、ぜひご覧ください。



トップページ

<http://www.daiichisankyo.co.jp>

企業インフォメーション (2014年9月30日現在)

会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	32,617名(連結)

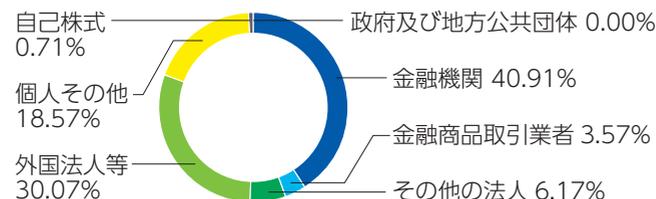
株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	114,909名

株主名簿管理人連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

所有者別株式分布状況



速攻。

熱のかぜに、**ルルアタック FX**
熱を体外に発散させ、発熱を鎮める。
かぜの諸症状(発熱・悪寒)の緩和

のどのかぜに、**ルルアタック EX**
のどの炎症を鎮め、痛みを抑える。
かぜの諸症状(のどの痛み・発熱)の緩和

これらの医薬品は「使用上の注意」をよく読んでお使い下さい。アレルギー体質の方は、必ず薬剤師、登録販売者にご相談下さい。
第一三共ヘルスケアお客様相談室 0120-337-336
受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日を除く)

第一三共ヘルスケア